

パロマ通信

パロマ広報誌「パロマ通信」

2018年
11月15日発行
13号

平和のしるし、
ハトが社名の由来です。

パロマは、スペイン語で「白いハト」を意味します。平和の象徴としてのハトに、平和で豊かな暮らしの願いを込めて名付けられました。



パロマなニュース

スペシャルオリンピックス2018愛知

知的障がいがある人たちのスポーツ大会で、オリンピックと同様に4年に1度、世界大会が開かれるスペシャルオリンピックス。その選考会も兼ねた国内大会が愛知県で開催されました。名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムも会場の一つで、パロマ大会を応援しました。

協賛の一環として、大会100日前にカウントダウンボードを寄贈し、愛知県の空の玄関口である中部国際空港セントレアに設置しました。大会は9月22日(土)～24日(祝)の3日間、パロマ瑞穂スタジアムでは陸上競技とフライングディスク競技が行われました。



テレビ/ラジオCM放送中

2015年の初代モデルの発売以来、累計30万個を出荷しているラ・クック。「グリルお掃除解放宣言」と銘打って全国でテレビ・ラジオによるCMを放送しています。動画はコマ送りのようにフレーム数を少なくして表現し、印象的な作品に仕上がっています。ラジオでもBGMやサウンドロゴにより耳からでも覚えやすい工夫をしました。

動画はパロマのYouTubeチャンネルでもご覧いただくことができます。



久々利城にジオラマを寄贈

パロマの所有する土地があることをきっかけに、パロマと岐阜県可児市と地元団体の久々利城跡城守隊との間で「久々利城跡の整備・活用に関する協定」を締結しています。この度、可児市戦国山城ミュージアムのオープンに際し、パロマ

ジオラマ倶楽部から「久々利城1/250再現ジオラマ」を寄贈しました。製作の中心は大口工場の大矢昭宏さんが務め、約半年の期間をかけて完成しました。式典では小林社長から富田可児市長へ目録が贈呈され、大矢さんからお二人や集まった報道関係者に丁寧に解説をしました。



内定式

2019年4月入社予定の大卒内定者22名の内定式を本社(名古屋市瑞穂区)で開催しました。式典では来年1月に就任予定の中島新社長より内定証書が授与されました。



生産技術部 諸戸 佑亮さん 坂野 雅貴さん

パロマ
なヒト

パロマのモノづくりを支える
生産技術部のエンジニア

パロマはメーカーとして、部品も自社でつくる「ゼロからのモノづくり」にこだわっています。こうしたパロマのモノづくりを支えているのが、生産技術部です。

「生産技術部の業務は、新しい製品・部品の開発から携わり、工場で製造するために必要な設備や金型を設計し、導入することです。高品質な製品をより効率的に量産できるように準備をする部署と言えます。どんな材料を使って製造するののかも考えますし、加工の作業順序などを決める工程設計、工程間での部品運搬といった物流の効率化も行います。モノづくりの一連の流れに携わることができるのも、この部署の魅力です」と坂野さんと諸戸さんは語ります。

入社4年目の坂野さんは、製造工程における新規設備の導入、産業用ロボットによる省人化・合理化を目的とした設備の導入などを担当。生産効率の向上を実現する、重要な役割を担っています。

3年目の諸戸さんは、ガスコンロの外観に使われる樹脂部品を製造するための金型の設計、修理、改善を行っています。金型はマザーツールとも呼ばれる、モノづくりに必要不可欠なものです。

「私たちが携わる産業用ロボットや金型などの生産技術は、日々進歩しています。幅広い領域の最新技術を積極的に学んで設備や金型づくりに活かし、お取引先様やガス機器を使う人に満足していただける製品をお届けしたい」と話す二人の表情からは、モノづくりへの熱い思いが感じられました。

キモチキレイ キャンペーン

「グリルお掃除解放宣言」
ラ・クックで
グリルもキモチもキレイに。
家族の笑顔をつくります。

キャンペーン参加販売店で
対象のコンロをお買い上げの
お客様に今ならもれなく!
ラ・クック専用
クッキングシート
プレゼント!!

キャンペーン期間
2018年9月1日(土)～2018年12月31日(日)

※本キャンペーン対象商品について詳しくは
「キモチキレイキャンペーン」参加店にお問い合わせいただくか
キャンペーンサイトをご覧ください。
<https://www.paloma.co.jp/kimochikirei/>

金型、産業用ロボットの技術を紹介

ガスコンロの外観に使われる樹脂部品の金型を設計



パロマ製品に組み付けられている部品には樹脂部品、プレス部品、ダイキャスト部品があります。これらをつくるために必要なのが金型で、私は樹脂部品の金型を担当しています。

技術開発部から提示された新製品の図面を見て、金型づくりの観点から完成部品に不具合が起きそうな箇所がないか、現場で加工しやすいか、量産に適した形状か、などを検討します。樹脂部品はガスコンロの点火ツマミ、グリルの取っ手など、人の目に触れるものが多くあります。見た目の美しさが使う人の安心感、店頭での競争力にもつながるため、完成部品の外観に関わる部分は特に厳しく検討し、技術開発部の担当者と話合います。改善された図面から仕様書をつくり、でき上がった金型で樹脂部品の試作成形も私が行います。樹脂を流し込む速度や圧力など、量産する際の条件を決めるため、試作を繰り返します。ベストな条件が確立でき、目標とする品質を実現した時の達成感は格別です。

幅広い知識を吸収することで、より良い製品づくりにつながると考えています。今後はプレスやダイキャストの金型もやりたいと思っています。

生産技術部
諸戸 佑亮さん

入社1年目でテーブルコンロ「グランドシェフ」の樹脂部品の金型設計を担当。現在はビルトインコンロなどの樹脂金型づくりに携わる。



生産技術部
坂野 雅貴さん

産業用ロボットの動作を調整する坂野さん。ロボットは工場に導入する前に動作プログラムを設計し、正確な作業を覚えさせるティーチングと呼ばれる調整を行う。

新しい技術と発想力で、工場の生産性向上を実現

私が担当する業務は、生産設備の導入です。時間(納期)、設備のコスト、製造品質などを考慮し、より良い生産体制を実現することが重要な役割だと考えています。以前、私が導入に携わったロボットは、手作業だったネジ締めを自動化して省人化を図り、品質向上も実現することができました。

幅広い業務や工程に関わる部署なので、それぞれの分野に深い知識が必要です。コミュニケーションも大切です。工場の人たちとの雑談からヒントを得ることも多く、現場の声を反映させた設備づくりに役立っています。同じ部署の社員、技術開発部、工場など関係部署と協力して立ち上げた設備からより良い製品が生まれ、世の中に送り出した時の喜びは大きく、充実感もあります。その製品が、人々の温もりある暮らしに貢献していることにもやりがいを感じています。

パロマは若いうちから大きな仕事を任せてもらえる会社です。私は入社3年目で、ベトナム工場の新規設備の立ち上げに携わりました。こうした経験を糧にし、今後も生産性のさらなる向上のために常に新しい考え方や発想を大切に、失敗を恐れることなく挑戦を続けていきます。



“すぐラク”を提案



1 「ラックオートメニュー機能」など調理の“すぐラク”機能が進化したビルトインコンロ FACEIS 2 グリル調理が楽しく、お手入れもラクになる“すぐラク”提案! 「ラック」「専用木製プレート」「専用クッキングシート」

ご要望をカタチにして暮らしを楽しむコトを提案

共働き世帯が増えた今、ワーキングマザーの多くが「料理や掃除などの家事は時短して、家族の時間を増やしたい」と感じていると言われます。こうした声に応じて開発した「ラック」は、調理も掃除もすぐにラクにできる“すぐラク”によって、お客様が暮らしを楽しむコトも提案しています。

上部に穴がないフタ付きでグリル庫内に油が飛び散らず、掃除がラクにできます。これにより「グリル掃除の手間から解放され、時間のゆとりも増えて家族団らんが楽しめる」など、お客様が望んでいた暮らしを実現し、大ヒットしました。

さらに「調理後食卓にそのまま出してテーブルコーディネートを楽しみたい



販売部 販売促進グループ
鈴木 琴美さん

い」という声を受け、カラーバリエーションを増やし、木製プレートも発売。テーブルをおしゃれに演出し、インスタグラムなどSNSに投稿する楽しさもお届けしています。

2018年に発売した専用クッキングシートは、「ラック」にクッキングシートを敷いても大丈夫ですか?というお客様の問い合わせをヒントに開発したものです。シートには折り目をつけて、ラックにピッタリ収まるサイズにしました。使用後はシートを取り外して捨てるだけでなく、掃除がさらにラクになります。

パロマは市場調査や製品に同梱されているアンケートがきき、コールセンターに寄せられた声などからご要望を把握し、カタチにしています。使う人の声に応えた製品を通じて、お客様が求める暮らしのスタイルも提案していきます。